



「兄と妹」 四合院住宅の門の前で写真を撮影していると、偶然、撮影していた門から子どもが出て来ました。一枚撮らせてもらおうと声を掛けようとした時、また門から子どもが出て来ました。双子ちゃんのようにそっくりだったのでビックリ！そしてふたり一緒に撮影させてもらいました。この国も子供は可愛いです。(2003年11月北京胡同にて)

撮影：木村武司

## 举一反三

← 中国で見つけた“有名小学校入学準備の為の”絵本から → 文と訳 ういくす 有為楠 君代

今回は、孔子さまのお話です。植田先生が、論語のお話をしてくださっているのに、ここで孔子の話を出すのは気が引けますが、中国で、しかも小さな子供たちに聴かせているお話だと改めて皆様の注意を喚起した上で書いてみます。

「孔子は春秋時代の大教育者です。孔子は、かつて自分の学生たちに言っていました。

『私が一つの知識を教えても、お前たちがそれに関連した別のことを連想して理解することが出来ないのなら、もう、私の学生でいてはいけない(やめてしまいなさい)』

後世の人は、この孔子の言葉を簡単にして、現在の成語「举一反三」を作りました。意味は、もし一つの道理(物の考え方)を習った後で、同じような問題に直面した時、習ったことを基に、考えを巡らせて(知識を応用して)その問題を解決出来なければ、学んだことが身についたとは言えない、ということです。

言葉の説明としては、「一つのことから類推すれば、その他のたくさんを知ることが出来る。類推によって広く理解する「触類旁通」のたとえ」として、ここで更に難しい成語が出て来ています。「触類旁通」とは、「類推によって広く理解する」、「一つの事柄から、類推して他を理解する」という意味だそうです。

例文は、「先生の指導の下で、学生たちは「举一反三」(知識を基に、類推して)、活発な討論を繰り広げた」となっています。

言葉の説明にしても、例文にしても、日本ではこのような話、未就学児童には分からないだろうと思ってしまうのですが、漢字の国中国としては、当然のこととして教えるのですね。何といっても漢字発祥の国ですから、小さい時からなるべく多くの漢字で、沢山の意味を教えようとしているのでしょうか。

この言葉、日本では「一挙三反」となって使われています。この語は、「四隅を持ったものの一つを取り上げて教えてもらったら、あとの三つの隅のことは自分で類推して問い尋ねること。才知がすぐれていること。孔子が弟子を啓発する教育態度を述べたもの」と紹介されています。

これと同じような意味で、やはり孔子に関係した言葉としては、この本の少し後の方で「聞一知十」と

いうのが出て来ますが、この四字成語、日本では四字の儘では使われず、もっぱら「一を聞いて十を知る」という言葉で表されています。

この「一を聞いて十を知る」というのは「成句」とか「ことわざ」という言葉でくられます。「井の中の蛙大海を知らず=井蛙之見」、「人間万事塞翁が馬、禍福は糾える縄の如し=塞翁之馬」、「天高く馬肥ゆる秋=秋高馬肥」、「鶏口となるも牛後となるなかれ

=鶏口牛後」、「馬の耳に念仏=馬耳東風」、「桑田変じて蒼海(青い海)となる=桑田蒼海」等は皆、四字成語を分かり易い言葉で表したもので、数え上げたらきりがありません。日本の日常生活では、この「成句」の方が頻繁に使われていますね。

多くの「成句」は、中国の「四字成語」を下敷きにしていますが、日本独特の成句もあります。特に「いろはかるた」には日本の社会を映したことわざが多いようですが中には中国の四字成語を基にしているものもあります。同じことでも表し方が違ったり、時には意味も微妙に違ったりするから面白いですね。

「いろはかるた」の中の「子は三界の首枷」とか「年寄りの冷や水」というような、ちょっと自虐的なことわざは、中国には見当たりません。昔からの中国社会の親子関係、老人観などからは考えられないのでしよう。



Ēr ài qí yáng, wǒ ài qí lǐ  
爾愛其羊，我愛其禮なんじ そ ひつし お われ そ れい お  
爾は其の羊を愛しむ、我は其の礼を愛しむうえだ あつ お  
桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄

今ではほとんど使われなくなりましたが、「告朔の餼羊」という言葉があります。古くからある風習や行事は、たとえ虚礼であっても、害がなければ残した方がよいという意味に多く使われます。また、虚礼化した慣習を揶揄する言葉として使われることもあります。

これも『論語』から出た言葉です。「子貢欲去告朔之餼羊 (Zǐ gòng yù qù gù shuò zhī xì yáng)」(子貢告朔の餼羊を去らんと欲す)〈八佾第三〉、というのがそれです。「朔」とは月初め、一日のこと。「告」とは告示すること。「餼羊」とは、神に供える羊の生贄のことです。もともと周代には、天子が年の終わりの月に、翌年一年分の暦を各諸侯に告げ、それを受けた諸侯はこれを祖廟に収め、月の初めごとに、その月分の暦を取り出して民に告示するという決まりがありました。これは最盛期の周代に行われた重要な儀式の一つでした。その際、各諸侯の祖廟に羊の生贄を供えました。これが「告朔の餼羊」です。

今日私たちが使っている暦は、1582年、ローマ法王グレゴリウス13世が定めたグレゴリオ暦がもとになっています。これは太陽暦と呼ばれるものですが、古代中国では太陰暦が中心でした。太陰とは月のことで、月の満ち欠けによって一か月を割り出すので、月を定めるのは比較的簡単です。これを12回繰り返すとほぼ1年になるので、年を定めるのもまた容易です。ただ、一日の長さは日の出から日没までが基準になっていたので、太陽暦一年の総日数365日余りと太陰暦一年の総日数354日余りととの間に10日余りのずれが生じます。そこで、このずれが30日前後に達すると、閏月を設け、その1年を13か月として調整を図ります。

更に、これに太陽暦に基づいた二十四節気を加

え、農作業に支障をきたさないようにしました。これが古来中国の伝統的な暦法で、中国では農曆と呼ばれています。この暦法は日本でも取り入れられ、明治初期までは一般に行われていました。これを太陰太陽暦と言います。

孔子が生きた周代でもこの太陰太陽暦が使われていました。ただ、二種類の暦を調整しながら使うには、複雑な計算を必要とします。古代社会では、民族により、地域により、さまざまな暦が使われていました。周代の中国は多数の部族国家の連合体で、これを周王朝が束ねていました。一つの王朝の暦が、広い地域で行われるということは、王朝の権威が、そこまで及んでいることの証左でもあります。したがって暦制定の儀式は天下を束ねる上で、極めて重要な意味を持っていました。

しかし、孔子が生きた春秋時代には王朝の権威が衰え、群雄割拠が始まっていました。「告朔の餼羊」も形だけのものとなり、王朝行事としての意味を失っていました。そこで、この形骸化した儀式を廃止するよう提言したのが、子貢でした。

これに対して孔子は次のように答えました。「賜也！ 爾愛其羊，我愛其禮 (Cì yě! Ēr ài qí yáng, wǒ ài qí lǐ)」(賜や、爾は其の羊を愛しむ、我は其の礼を愛しむ)。賜(子貢の本名)よ。羊一頭を惜しんで、王朝存立の基本となる儀礼をおろそかにしてよいものか、と。

時代に合わなくなったものは捨て去ればよい。それも一理あるが、天下の秩序と安定の為には、残すべきものはやはり残さなければならない。現に失われつつある秩序と安定を取り戻すこと、その方が先決ではないか。これが孔子の考えでした。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)

この旅も9月に入った。2016年8月24日から始まった旅は9日目を迎える。大連は秋の気配が忍び寄って来た。最後となる本稿は、大連の新名所の紹介と2日の帰国の日の飛行機での体験で締めくくりたい。

9月1日、旅の最後の夜が来たが、昨年大連の友人から「大連の新名所の橋ができたので見に来たら」と、美しい曲線美を描く夜景の動画を微信で送ってくれたので、それを見に行くことにした。その友人と夕食後ホテル前からタクシーに乗りこんだ。橋の名前は、「星海湾大橋」という。

星海湾大橋は2015年10月末に完成した。全長6.8キロメートル、上下線合わせて8車線、しかも車道は2階建構造で歩道もある素晴らしい橋である。イメージとしては日本では車道と電車を走らせる二重構造の本四架橋を思い浮かべる。大連には毎年のように行っているが、建設中の橋を見たこともなければ昨年まで友人からのライトアップされた動画が来るまで知らなかった。開通の10か月後に行っていきなりこのような光景に出くわすと、さすがに驚嘆を禁じ得ない。大連市内は年を追うごとに交通渋滞がひどくなっていたので、単なる観光用だけではなく混雑する中心部から旅順方面のバイパスが必要になってきたのではなかろうか。反対方向にあたる経済開発区方面も渋滞が慢性化していたので数年前に海上にバイパスの道路を造っている。地下鉄も2路線開通し、大連は年ごとに交通網の充実を目の当たりにする。3月号に書いたように2018年は新空港の開港が予定されている。

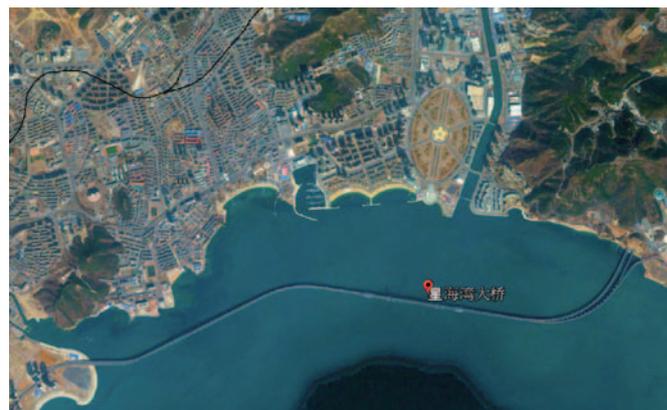
この橋へは、市内の「八一路」「長春路」「東北路」の三本の道路から完成したばかりの美しい蓮花山トンネルを通過して入り、海上を「S」字の曲線を描く道路を走り、旅順側の高新技術産業園區の「七賢岭」で以前からの大通りに合流する。全線が制限速度が60キロメートルに設定してあり、監視カメラが怖いからかカミカゼ運転する車はいないのが奇異に感ずるほどだ。途中にあるアーチ式の部分では路肩に車を停めて写真を撮っている人が大勢いた。夜景は特に素晴らしく夢の中にいるようであった。ちなみに通行料は無料。

9月2日。今回の旅の最終日である。ちょっぴり寂しさが胸をよぎる。10日間雨も降らず晴天の日が多く、晴れ男の面目躍如である。10時ころ友人がお土産を持ってホテルを訪ねてくれた。空港まで荷物が多いし年寄りなので送ってくれると笑いながら言うのでご厚意に甘えることにした。フロントで退室手続きをすると、押金(保証金)を200元返してくれた。地下鉄でもいいが荷物が重いのでホテル前でタクシーに乗り込む。無事空港に着き、友人とは来年の再会を約して別れた。

ANAのカウンターで発券してもらい税関を通過して26番ゲート近くで待つ。数年前の空港ターミナル拡張までは、1番か2番登壇口であったのを思い出す。ANAのNH904便は13時15分出発なので12時45分くらいから順次搭乗開始となった。私の席は2人掛けで通路側の19Hである。自分の席に向かうと隣の窓側の席である19Kには小さな女の子がシートベルトをしっかりと締めて座っていた。念の



星海湾大橋 (画像はトリップアドバイザーから)



星海湾大橋 (グーグルアースから)



## ➤スターリンに抑圧されたソ連圏エスペラント界

戦後の冷戦時代、大国ソ連を支配していたのはスターリンでした。ロシア革命の指導者レーニンの死後、スターリンとトロッキーは後継路線を巡って激しい闘いを演じました。トロッキーは、社会主義は一国で成し遂げられるものではない、世界革命の過程の中で進むものであるという世界革命論を唱えて、スターリンの一国社会主義論と政治的な対立を生み出しました。しかし、文学や芸術論にも造詣が深いトロッキーはスターリンに敗れ、国外に追放されました。亡命先を転々とせざるを得なかったトロッキーは、最後の亡命の地メキシコでも言論でスターリンとの闘いを続けていましたが遂に、スターリンが放った刺客によって殺害されました。

スターリンは政敵をことごとく葬り、冷血な独裁者として君臨し、思想面でも抑圧的な体制を築きました。1950年6月、スターリンは、ロシアナショナリズムを鼓吹し、『言語学におけるマルクス主義について』という論文を発表しました。そしてソ連のロシア語学者たちは「ロシア語を学べ！ロシア語だけがただひとつの世界語になるだろう」と主張しました。

ソ連や東欧圏の“社会主義国”のエスペランティストたちは弾圧されました。日本のエスペランティストたちと文通していた東欧圏のエスペランティストたちは、「手紙を送らないでくれ」と警告してきました。

しかし、そのスターリンも1953年、亡くなりました。そして1956年、党第一書記フルシチョフの党大会での秘密報告でスターリンの罪状が告発されました。圧政からやっと解放されたソ連東欧圏では抑圧されてきたエスペラント運動が復活しました。その功績に貢献したのがMEM(世界平和工

スペラント運動)でした。そのMEMの日本支部が1957年3月に発足し、機関誌『パーツォ(PACO)』を発行しました。会員は54人。名古屋にいた由比はMEM日本支部長を引き受け、『パーツォ』の編集発行に携わりました。

## ➤ソ連を告発した由比

由比の大陸での体験が強く出た、あるエピソードを紹介しましょう。スターリンの罪状が明らかになっても当時、日本のいわゆる進歩的な陣営にいたと思われていた人たちの間では、ソ連は進歩的な国に見られていました。

1961年、富山で開催された日本エスペラント大会でのMEMの分科会で、ある人が「平和の敵を規定せよ」と迫り、アメリカ帝国主義を批判しました。それに対して由比は、「ソ連もまた帝国主義国家である」と明確に発言しました。

1960年代半ばまで、ソ連が核実験を強行した時、日本の左翼陣営は「アメリカ帝国主義の核実験とソ連のそれとは違う」という意味合いでソ連を擁護し、分裂した状態を作りだしました。

このような状況下で由比は、ソ連を告発したのです。それこそ大陸での苦い体験から出たものでした。

1945年8月9日、旧満洲に突如侵攻してきたソ連は、日本の壮年の男たちをシベリアに連れて過酷な労働をさせ、また

婦人たちを凌辱し、工場の機械などをソ連に持ち去りました。由比は満洲でのソ連支配下の実態を肌で知っていました。その苦い体験に裏打ちされた「ソ連帝国主義」という表現になったのでしょう。

ソ連の核実験は、アメリカ帝国主義に対する防衛的なものであるとして、左翼陣営がしばしば、それを擁護していた状況での由比の発言はすこぶる勇気があり、また鋭いものであったと言えるでしょう。由比は一部の人たちから「反動分子」と言

混迷の時代を拓くザメンホフの人類主義「私は人類の一員だ」  
第十四回 由比忠之進の世界平和への闘い

ジャーナリスト、方正友好交流の会事務局長、著書『ある華僑の戦後日中関係史』

大類 善啓(おおるい よしひろ)

われたようです。

エスペランティスト星田淳は、「由比さんの発言は当時としては相当勇気のいるものだった。ソ連も帝国主義と思っている人は多かっただろうが、集会など公の場で発言する者はいなかった。当時は“きれいな原爆”という言葉さえあった時代である」と話しています。

### ▶ 原爆被災者を支援した由比

由比はMEMの活動に力を入れ、当初54人だった会員は130人まで増えました。その頃の由比の様子をエスペランティストの阿部祈美は、「由比さんは、東京で失敗したと伝えられていた世界平和エスペラント運動だったが、名古屋の自宅で特許弁理士の仕事をしながら引き受けておられた。機関誌の『パーツォ』ひとつ出すためにも大きな努力が払われている現状の中で、日本支部は、ともかく機関誌を定期的に出して各国を感心させていた」と書いています。

ちなみに阿部さんとは私も若い時代、親しくお付き合いをしていたのですが、2013年10月、40年ぶりかで横浜の自宅で阿部さんにお会いしました。その一か月後、阿部さんは黄泉の国に旅立ちました。

私が阿部さんと同じように親しくしていただいたエスペランティストに、この拙文に何度も登場している伊東三郎さんがいます。伊東さんはオランダのロッテルダムで開催された世界エスペラント大会に参加する際、「大会で原爆被災者の援助について強調したい」と由比に話した時、由比は以前から続けている被災者を支援する折鶴ブローチを世界のエスペランティストに売るように提案したことが由比の1967年6月15日の日記に記されています。

伊東三郎・公子夫妻が世界大会で原爆の悲惨さを訴え、被爆者へのカンパを求めるという伊東夫妻は、由比の自宅を訪問しました。由比はそれを喜び、原爆犠牲者に関する写真説明をエスペラント訳にという伊東の依頼に応えました。

### ▶ 由比を導いた人類人主義

由比は『パーツォ』に原爆に関する原稿を多く書きました。とりわけ被爆者への思いが強く、被爆者がどれだけ長い忍従の生活を強いられていたか、原爆反対運動などの行動を起こすのにもどれだけ勇気がいったかなど、被爆者の思いにいつも寄り添っていました。

由比は世界のエスペランティストに被爆の実態を伝えるため、日本国内のエスペランティストに被爆実態のスライドを購入させ、エスペラントの紹介文を添えて送っています。

機関誌『エスペラント』に由比が出したスライドの広告文にはこう書かれています。

「あなた方の努力で世界中に原水爆の残虐性と恐ろしさを広めていくことができます。しかし、力のある国では相変わらず、核兵器の製造を止めず、核実験を繰り返しています。核兵器の恐ろしさを他国の無関心な人々に知らせ、彼らをして活発な運動へ参加させていくことは、日本の平和運動家の責務です」

伊東三郎は由比を、「広島、長崎の原爆被災者に対しても自分の苦痛と感じ、自分に責任があると感じて熱心に原爆禁止、被爆者救済の運動に加わり、エスペラントの特技を生かして、世界平和エスペラント運動の日本代表として全世界に呼びかけ続けた」と記しています。

エスペランティスト宮本正男は、「由比の一貫した思想は、ホマラニスム(大類注:人類人主義)であった。由比の、いわば、未熟な思想を一定の党派に結びつけたがるのは、どう考えてみても、由比に対する冒とくである。由比はもう少し、かれらよりも背が高かった。由比からわれわれが学びとらねばならないものは、その非党派的超党派的平和愛好精神と、千万人といえども我行かんという気概であり、その行動である」と書いています。

■本稿は比嘉康文著、『我が身は炎となりて』新星出版(2011)。また『宮本正男作品集』日本エスペラント図書刊行会(1993)に拠っています。

## 東西文明の比較 (15)

陽光新聞社・顧問  
塩澤宏宣

日本の卑弥呼の時代には、中国はどうであったのか。多くの偉人が不朽の名著を残していることに驚かされます。ざっと挙げるだけで「詩経・書経・春秋左氏伝・論語・易経・孟子・荀子・孫子・韓非子」があります。いずれも2000年以上前に成立した書物で、未だに燦然と輝いています。

また、司馬遷は歴代の歴史を「史記」として残し、以後の歴史も、それぞれの王朝の足跡が残されることになりました。残念なことです。弥生時代には文字がありませんでした。貴重な日本の歴史は、「三国志」などの古代中国の史書に頼るほかありません。

弥生時代は、西晋王朝の陳寿がまとめた「三国志」の「魏書東夷伝倭人の条」、通称「魏志倭人伝」に記されています。文字数にして約2000文字です。その内容は三部に分かれます。

つぎに、その書から邪馬台国や卑弥呼について触れてみたいと思います。

### 1. 位置などに関して

「倭人は帯方(前漢の武帝が紀元前108年、朝鮮半島に置いた楽浪郡の南の郡)の東南大海の中に在り……その道里を計るに、当に東治の東に在るべし」

### 2. 倭人の風俗に関して

「其の風俗淫ならず……倭の地を参問するに、海中洲島の上に絶在し、或は絶え或は連なり、周旋五千余里可りなり」

### 3. 外交に関して

「景初三年六月、倭の女王、大夫難升米等を遣わし郡に詣り、天子に詣りて朝献せんことを求む……因つて台(邪馬台)に詣り、男女生口三十人を献上

し、白珠五千孔、青大勾珠二枚、異文雜錦二十匹を貢す」

上記の区分けに添って述べてみます。

### 1)「倭を邪馬台国として」の位置について

陳寿は「其の道里を計るに、当に会稽の東治の東に在るべし」と明記しています。会稽の東治とは、福建省の閩侯県の東を想定していたのです。おそらく、海南島の東方海上あたりではないでしょうか。15世紀初頭の地図(混一疆理歴代国都之図)には、日本の位置が海南島の東、朝鮮半島の真南に描かれています。邪馬台国はどこにあったか、という論争は北九州説と畿内説を中心に、全国80か所もあるようですが、確実な証拠が発見されていない状況では、いずれも「仮説」の域を出ないのではないのでしょうか。

### 2)「邪馬台国」の風俗について

「其の国、本亦男子を以て王となし、住まること七、八十年、倭国乱れ、相攻伐すること暦年」に続いて「乃ち共に一女子を立てて王となす。名付けて卑弥呼と曰ふ。鬼道を事とし、能く衆を惑わす」と書かれています。「鬼道」は「道教」を言うようですが、不老長生の神仙信仰にもとづく現世利益の道教的信仰(鬼神信仰)が日本列島に導入されていたことは事実のようです。その証拠があります。2世紀末～3世紀前半に作られた方格規矩鏡(男仙最高の東王父、女仙最高の西王母を鑄す)が福岡県糸島市の井原やりみぞ鑿溝墓・平原墓で集中的に出土、畿内では3世紀中葉の奈良県桜井市ホケノ山古墳で見つかった画文帯神獸鏡にも東王父や西王母が鑄造されています。また、邪馬台国は階級社会であったことも読みとれます。

「下戸、大人と道に相逢へば逡巡して草に入り、辞を伝え事を聞くには、或いは蹲り或いは跪き、両手は地に拠り、之が恭敬となす」とあります。また卜占に関する記述もあります。「其の俗挙事行来に、云為する所有れば、すなわち骨を灼きて卜し、以て吉凶を占なひ、先づトする所を告ぐ。其の辞は令亀の法の如く、火坼(裂け目)を視て兆を

占う」がそれです。

なかでも注目する記述があります。「其の行来・渡海、中国に詣でるには、恒に一人をして頭を梳らず、蝨を去らず、衣服垢に汚れ、肉を食はず、婦人を近づけず、喪人(喪に服している人)の如くせしむ。之を名付けて持衰(喪服を着た呪術者)と為す。若し行く者吉善なれば、共に其の生口・財物を顧し(与え)、若し疾病有り、暴害に遭へば、便ち之を殺さんと欲す。其の持衰謹まずと謂へばなり」。また葬送の記事もあります。「停喪十日余日、時に当りて肉を食はず、喪主哭泣し、他人に就いて歌舞飲食す、已に葬れば、挙家水中に詣りて洗浴す」。現代にも通じるようなところがあるように感じますが……。

### 3)「外交」について

邪馬台国と魏王朝との外交が文書で行われていました。景初3年(239)十二月、魏の順帝が「親魏倭女王卑弥呼」に詔書を与え、正始元年(240)少帝が勅使を遣わして詔書をもたらしめました。おそらく渡来の知識人がいて詔書の内容を卑弥呼に説明していたのではないのでしょうか。邪馬台国と魏の交渉回数、邪馬台国から三回あります。魏側からは、勅使(梯儵・張政など)の派遣や帯方郡太守との交わりが頻繁にあったようです。

邪馬台国の王位は、男王一女王(卑弥呼)一男王一女王(台与)一男王へと受け継がれました。2世紀半ばから3世紀は、激動の時代であったことが分ります。「倭国の乱」の背景について少し述べてみます。中国の後漢末、太平道の信徒による黄巾の乱(184～188)が起り、王朝は衰退し、朝鮮半島における民族の勢いが盛んになり、楽浪郡や帯方郡などの後漢による植民地支配が出来なくなりました。「倭国の乱」もこうした隣国の影響を受けたことは当然といえるでしょう。

この項の最後に「邪馬台国と女王卑弥呼」の論争について述べてみたいと思います。

通称「魏志倭人伝」は、養老4年(720)に奏上した日本書紀が神功皇后摂政の条に引用しているように、卑弥呼は神功皇后と対応する人物と考えてい

た可能性があります。

初唐の魏徵が隋王朝の歴史を著わした隋書の東夷伝倭国の条は、「邪靡推(やまと)に都す。則ち魏志の所謂邪馬台なり」と明記して、開皇20年(600)からの奈良県のヤマトにあった飛鳥朝廷との外交を述べる中で「魏志」の邪馬台国に言及しています。

邪馬台国の研究は、江戸時代から本格化します。まず、江戸初期の儒学者で医者 of 松下見林。その著作「異称日本伝」で「卑弥呼は神功皇后の御名、氣長足姫尊(おきながたらしひめのみこと)を、故れ訛りて然か言う」と書いています。

新井白石は正徳6年(1716)、「古史通或問」で、「倭女王卑弥呼と見へしは日女子と申せし事を彼国の音をもてしるせしなるべし」として、「魏志に倭女王奉献の事見へしは神功皇后の御事とみへけり」と、邪馬台国畿内説と女王卑弥呼＝神功皇后説を公にしました。

日本国学の泰斗、本居宣長は、中国史書の記述には多くの疑惑を抱いていたようです。安永6年(1777)に執筆した「馭戎慨言(からおさめのうれためごと)」では、「かの国(魏)へ使をつかはしたるよししるせるは、皆まことの皇朝の御使にはあらず。筑紫の南のかたにていきほひある、熊襲などのたぐひなりしものの、女王の御名のもろもろのからくにてまで高くかがやきませるをもて、その御使といつはりて、私につかはしたりし使也」と論じています。

「天照大御神の神代」以来の「皇朝」論者の宣長は、「そもそも大御国には、神代より今に至るまで、天皇の御末(子孫)ならで、王といふ例は、さらなきことなるを、三十許国、国ごとに皆王と称すといへるは、まことには王にあらで、次に大倭といへるぞ、まさしく天皇をさして申せるには有りける」ということになります。

本格的な科学的論争は、明治時代になります。明治43年(1910)、東京帝国大学の白鳥庫吉と京都帝国大学の内藤虎次郎の論争です。いずれ機会があれば、述べてみたいと思います。

## 消え去りゆく北京の路地裏・胡同への思い (1)

木村 武司

「わんりい」6月号と7月号で現在の、北京の路地裏・胡同を紹介します。

6月号では北京の胡同<sup>フートン</sup>注)が今どのような状況なのかについて、まずは皆様知って頂きたい事から「消え去る胡同」について話そうと思います。

7月号では私の感じた胡同の良さ・素晴らしさについて話したいと思います。

胡同は中国・北京だけにある風景で、長年にわたって人々の生活が営まれてきた路地裏、あるいは町並みとも言うのでしょうか。私はこの北京の庶民の人々の生活感がにじみ出ている胡同の風景が大好きで、永年この風景を撮影し続けております。

皆様もご存知のように中国は世界で第2位の経済大国になりました。そしてその中国の経済発展に伴い人々の生活レベルも格段に向上しました。それに伴って北京の人々は更に便利な生活を追求するようになりました。つまりかつて私達アラカンの年代が経験したようなことが、中国の大都市である北京で起きています。ただ日本と少しばかり異なる社会問題が更に深刻さを増しているようにも思えます。

例えば家の問題。誰しものが広い家に住みたいと思うのは万国共通の事ですが、現実はなかなかそ

うもゆきません。北京の家屋といえば、皆さんの中には胡同に面して建つ「四合院<sup>注)</sup>」という建築様式を思い浮かべる方がおられるかもしれませんね。

「四合院」は中庭を囲むようにして建てられた、北京の昔からの代表的な格式ある建築様式ではありますが、時代の流れによって現在では家族や親戚でもない人々が四合院の中の家屋に住むようになりました。それぞれの住人は少しでも広い部屋が欲しいことから、自分で自宅の外側に部屋を増築して広くし、皆がこれに習って通路を残して拡張し、大雑院と呼ばれる秩序の無い家屋が形成されてしまっています。部屋が多少は広くなっても生活しにくさは変わりません。水道の問題、排水の問題、トイレの問題等々、胡同内の家屋不便さは解決できないままです。

一方、経済発展に伴い経済的に余裕のある家庭では、車を持つようになります。車を持てば便利です。しかし、車が増えることによって駐車場の問題、交通渋滞の問題、挙げ句の果てPM2.5による空気汚染などが北京の問題となっています。市政府は交通渋滞をなくすために、胡同のような細い道路を拡張して幹線道路にする計画を打ち出したりしています。

中国では土地は公共のものですから市政府の計



「駐車中の車」

胡同の通りには昔からの家が建ち並んでいることから、基本的には駐車場はありません。そこで車を片側に寄せて駐車することになります。もし対向車が来たら、歩行者は避けて車の通過を待つことになります。(2011年4月撮影)



「もう少し考えて駐車願います」

これは歩道のしかも横断歩道の上に駐車しているパトカーです。日本では考えられない光景です。歩行者もお巡りさんもおおらかなのですね。(2015年6月撮影)

画に基づいて、元々そこに住んでいた住民は立ち退かされ、住んでいたところは道路になったり、高層ビルが建てられたりします。しかし、この新高層ビルは立ち退かされた住民は住めません。殆どの元の住民たちは郊外に建てられた新築マンションへの引っ越しを要求されます。

若い住民の方にとっては、それでもラッキーな事だと思います。郊外である為に、通勤時間が更に必要とはなりますが、古い、汚い、狭い、不便な家から、新しくて広く、綺麗で便利な、欧米の映画やニュースで見るような快適な暮らしが出来るスペースが手に入るのです。一方、高齢者たちは長年住み慣れた場所を離れる上、子供の頃から親しかった顔見知りの住民の方々と離ればなれになります。長いお付き合いにより培われた住民同士の意識もないところで生活するのですから、多くの方が新しい環境に馴染めず戸惑っているようです。

立ち退きは命令ですから、従うしかありません。しかしながら、未だに北京の交通渋滞は改善されてはいません。渋滞するから道を広げ、一時的には緩和されても、更に北京市内の車が増えてまた渋滞。それでまた細い道を幹線道路にする。いたちごっこなのです。

このような状況で残念なことに古い胡同の町並みが次々と北京の街から消えていっています。勿論、胡同の景観を保存している地域もほんのごく一部にはあります。が、北京に行く度に私が感じる街の変化は非常に速く、北京の文化財でもあり、北京の歴史を感じさせる風景である胡同が急速に消えております。外来者にとって伝統的な北京の風景である胡同。しかし、どんなに歴史のある風景であっても、そこに生活する住民にとっては狭くて不便な四合院よりは、より快適な生活を希望される人々がおられるというは当然です。そのような訳で、私は失われてゆく胡同の風景を惜しみつつ悲しみつつ、北京に行く度に胡同を撮影しております。

**注) 胡同と四合院:**胡同は北京市の旧城内を中心に点在する細い路地のこと。四合院は、方形の中庭を囲んで、1棟3室、東西南北4棟を単位とする北方中国伝統的家屋建築である。(ウィキペディアより抜粋)



現代画のある胡同の光景です。最近では殺風景な家屋の壁に絵を描くところが増えてきました。ところで自転車が倒れていますが、わざと倒してあります。その理由は、この場所に他人の車が駐車出来ないように、場所を確保しているためです。(2015年6月撮影)



このような状況は、北京も生活が車社会になっていることから起きています。胡同も車に占領され、歩行者が安心して歩行できない。車も渋滞から逃れるために、あえて細い胡同を通ります。北京市政府は交通渋滞や住宅問題を改善するためにも、胡同を壊し、その跡地に道路と商業ビルを作り、立ち退いた住民には郊外に高層住宅を作ってそこに住んでもらうという政策を進めています。ある時、突然!胡同の建物の壁に、次の取り壊し場所が公示されます。自分の家を含めた周辺が該当するかしらないか、住民の方にとっては…。期限がある事から急に忙しくなります。該当する場合にはその世帯にとって、緊張の瞬間です。(2006年2月撮影)



自分の家が該当するの、緊張の瞬間です。(2006年2月撮影)



「取り壊される家屋」

そして取り壊し予定家屋の壁には、この様な文字「拆」が無慈悲にも書かれます。(2005年2月撮影)



「壊された家屋」

昔から使われていた門だけを残し家屋は壊されてしまっていた。(2008年11月撮影)



「壊される家屋」

住居は無残にも重機によって容赦なく壊されてゆく。(2005年2月撮影)



子供とお父さん。子供は自分が生まれた街に古い町並みがあった事など、新しいマンションに住むと忘れてしまうことだろう・・・。(2011年4月撮影)

### 《'わんりい' 掲示板》

#### ◆わんりいの講座 中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音！中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう！！

- ▲ 6月4日(日)町田中央公民館6F 視聴覚室
- ▲ 7月9日(日)町田中央公民館6F 第3・4学習室
- ▲ 時間:10:00 ~ 11:30
- ▲ 講師:植田渥雄先生

(桜美林大学名誉教授、  
現桜美林大学孔子学院講師)



- ▲ 会費:1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲ 定員:20名(原則として)
- \* 録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆ 申込み: ☎090-1425-0472(寺西)  
E-mail:ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)

#### ◆わんりいの講座 ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう！

あなたも私も笑顔が美しくなる！身体の力を抜いて、気持ちよく発声しよう！！

- まちだ中央公民館 視聴覚室
- 6月27日(火) 10:00 ~ 11:30  
練習曲「雨降りお月さん」(野口雨情 作詞/中山晋平 作曲)
- 7月25日(火) 10:00 ~ 11:30  
練習曲「夏の思い出」(江間章子作詞/中田喜直作曲)
- ★ 動きやすい服装でご参加ください

- 時間 10:00~11:30
- 講師:Emme(歌手)
- 会費:1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- 定員:15名(原則として)
- ◆ 申込み: ☎042-735-7187(鈴木)



E-mail: wanli@jcom.home.ne.jp(わんりい)

**使用済み古切手  
と書き損じの葉  
書でご支援を！**

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついでに折に田井にお渡し下さい。

台湾で沢登りを〜という仲間よりも、ひと足早く台湾へ出発した。

アジアの地図で台湾を見つけるのは易しいが、台湾領の金門島ってどこだろう? と探した。中国本土と台湾との関係(歴史)を知るにつれて、…なるほどと思った。

〈金門島〉へ行くために、台北の仲間に連絡を取り、台北→金門島のチケットと宿の手配を頼んだ。友人Aさんとの2人旅、言葉はカタコトの英語とジェスチャー…、移動はタクシーと路線バスで島を巡る予定だ。

沢登りの時は、みんなでワイワイ、中国語・日本語のチャンポンでやり取りするのだが、仕事を休んで一緒に〜と台北の仲間に頼むのは申し訳ないので、緊張感もあったが、やじきた道中となった。

午後成田を出発し、その日は空港に近いホテルに泊まって、なじみの台湾の岳友らと久しぶりに歓談した。桃園空港でEさんの出迎えを受ける。いろいろ配慮して下さり、本当に感謝・感謝だ。宿は明日の出発に便利な松山空港の近くで、都心の快適なホテルだ。

夕食はEさんはじめ数人の台北の山仲間さんを交えて一献。台湾へは今回で20回以上にもなる。だから皆さんにずいぶんお世話になってきた。当面不要な装備などをEさんに預けて、身軽になって明日から金門島へ行く。これからも、どうぞよろしく!

請多指教(チンドゥツァオ)

金門島は大小15の島からなり、総面積はおよそ150km<sup>2</sup>で、瀬戸内海の小豆島くらいである。明の洪武帝のころ(1387年)千戸所城を築き、海防と侵略者からの防御の役割を担った。〈金の如く固く、雄々しい海の門〉で金門島と呼ばれるという。

大陸からの移民の子孫が暮らす島には大陸文化の影響を濃く受け継いだ遺跡も多い。各集落には必ず宗祠(注)があり、古跡はこの小さな島になんと30箇所以上もある。1949年に大陸の国民党政府が台湾へ移ってから1992年まで永らく軍事管制下に置か



海福ホテル前のたたずまい (写真はGoogleパノラマ)

れていた。その後、観光産業が発展してくると、それらは軍用遺跡として重要な観光資源になってきた。平和に暮らせるのは嬉しいことだ。

2日目は、金門島へ早朝の出発になるので、フロントに相談したらサンドイッチを用意してくれた。タクシーで空港へ行き搭乗手続きのあと、待ち時間にその朝食を食べた。ほぼ満席で20分遅れで出発、到着は8:40分となり海福ホテルの出迎えを受けた。

かなり上等のホテルで2泊、往復の飛行機代と合わせて6150台湾元(1元約3円)である。一服してから観光、フロントで市内地図をもらって、雨あがりの街中を散策する。

繁華街で昼食のあと、徒歩とタクシーを利用して地図を片手に街中を散策。徒歩20分ほどで高殿(楼)へ行く。最上階からの見晴らしがいい。観光バスが次々にやってくる。遠く小金門島も見え



た。帰りの路線バスの時間が合わず、疲れたのでタクシーを利用した。

時間が早いので、そのまま南端の坑道へ行く。古い軍事施設のトンネルで、こんなに広く長いトンネルをよく掘ったものだ。ここも観光客必見のところでバスで次々にやってくる。だが台北からではなく中国本土からの人が大半だそうだ。

蒋介石の時代には金門砲撃の最前線となり、中国から集中的に砲弾をあびて、島全体がボロボロになり、今の人口はおよそ7000人くらいだ。元海軍の根拠地として物資輸送のため坑道が掘られた。また昔は塩田だったところも防御のため堤を築いて湖にして、軍事拠点とした。それが今では野鳥の宝庫となっている。

永く軍事管制下にあったため手つかずの自然生態がよく残っていて、特に渡り鳥:バードウォッチングを楽しむのに最適な環境となっている。しかし高い山はない。島の中央にある大武山風景区の北大武山262m、南大武山173mくらいだ。ちなみに台湾南部にある同名の北大武山は3092mだから、同じ山名とはいえ金門島の山はちょっとだけ盛り上がった丘のようだ。

ようするに中国本土から襲撃を受けて破壊され、本土からの観光客が増えて復興してきたのか…。またタクシーで珠山の旧い集落へ行く。ここも国家公園の保存区で、独特の昔ながらの村落…現在も人々が暮らしている。150年以上も前の生活に郷愁を覚える本土の人たちにとって、人気の高いところなのだろう。

その後、陶芸の作業場を見学、作品を見てまわりますが、沖縄の陶芸に酷似しているように感じた。ルーツはどちら？

夕方ホテルへ戻る。慣れない土地でキョロキョロだった…。有名な高粱酒や落花生・南瓜種子の菓子を土産に買う。夕食のあと、昨日Eさんが差し入れてくれたマンゴーなど果物がとびきり美味！台北の友人らが、金門島という一様に高粱酒～というほど有名なので、みやげ用に購入したのだ。

3日目、昨日のタクシーを頼んで、島内北部と小金門島へ向かう。

北部坑道の備え付けの望遠鏡で、晴れていれば中



大武山歩道

(写真はGoogleパノラミオ)

国本土を眼前に見ることができる。大陸本土と台湾の関係がまた険悪になったら、金門島は観光どころではないと思う。似たような境界線は、朝鮮半島にある韓国と北朝鮮の軍事境界線だろう。しかしここは陸地でなく〈海〉になったような感覚だ。猫公石岸は海岩・砂浜がきれいで、目の前に<sup>アモイ</sup>廈門の海岸・ビル群が良く見える。

午後は小金門島へ14:30の船で行く。動き出した船は15分で到着、1日に27～28便(つまり頻繁に～)で、観光と物資の輸送を兼ねている。島を一周するサイクリング道路があり、時間があればそれも楽しそうだ…。レンタルの自転車は無料。バイクや車もレンタルを利用できる(有料)。民宿もあるので1泊すればよりのんびり滞在できるだろう。

サイクリングで…がいいのだが、1周3時間というタクシー観光を利用した。海岸から向こう側の大陸・<sup>アモイ</sup>廈門のビル群が良く見える。大陸の明・清時代の遺跡が多いことが、郷愁を誘って観光客が多いのだろうか。昔の住居跡も見学することができる。海をはさんで僅か10数kmだから、新潟本土と佐渡島(約60km)よりはるかに近い。米国のフロリダ南端からキューバまでは、何と250kmも離れている！

一周観光してから船で戻る。昨日も今日も、タクシーは女性ドライバーだった。中国本土からの団体客が観光バスでまわるのを沢山、あちこちで見かけた。日本人では、ひとりで昨日<sup>アモイ</sup>廈門からきたという人に会った。

18時過ぎ、ホテルに戻り、夕食は街へでて名物の牡蠣のそうめん、小粒ながらたっぷりと盛られた牡蠣と出し汁のよく効いたスープ、値段はとても安い

が贅沢な美味しさだった。日本語で〈おでん〉と書いてある店もあった。

2001年から<sup>アモイ</sup>廈門との直接交流が始まり、船で約1時間という近さと安い費用で来られるようになったため、観光客の大半が大陸(中国本土)からの人々で占められるようになってきた。旧い大陸文化に人気があるようだ。

最近の台湾、政治的には中国寄り…という批判が一般国民から出ているそうだが、友好的な今だからこそ、金門島へ行くのに不安はない。再びドンパチが起こったら、それこそ大変だ。まして外国での登山は、政情不安では決して楽しめない…。

インド・中国・パキスタンなどの国境の高峰や中国西方のウイグルなどへ私は、登山以外の危険や厳しさを覚悟して行き登ってきた。

20年以上前にインド北方の山へ行った時には、日本・外務省で危険地帯(インド・パキスタン)ですよ、と念を押され、身の安全は保証が難しいともいわれた。(行くな、ということか)中国西方のムスターグ・アタへ登頂した時には、漢民族とウイグル族との差別はみられたが大きな暴動はなかった。今ウイグル紛争のニュースに接するたびに心が痛む…。平和なら地球のどこへでも行けるだろうに…。原爆実験が何回も行われているというが、極秘扱いで報道されないようだ。

だが、政治とは関係なくとも、そして登山以外にも事故は身近だ。金門島を訪問した翌年に、台北から金門島行きの飛行機が空港を飛び立った直後に墜落! というニュースがあった。以前、韓国からの帰国の日に、北朝鮮からの爆撃(ヨンピョン島)というのがあったし…。またスペインからの帰国のときは、翌日にあの同じ空港で飛行機炎上という大惨事が起きた。まさか～は命とり…、山だって詩人にも死人にもするけど、どこでも油断大敵だ。

4日目、午前中は水頭港の南にある旧住宅街を見てまわった。雨にもかかわらずここにも沢山の観光客が来ていて、往復路線バスを利用した。

午後の便で台北・松山へ戻る。午後は遡行パーティと合流して巴稜の山荘へ向かう。今日から台湾は梅雨入りで、日本よりも約1か月以上も早いので、GWに日本から台湾へという、天気が不安定なこ

とを考えたほうがいい。

Eさんが迎えに来てくれた。沢登りの仲間たちと一緒に、巴稜へ向かう。途中の三峡で夕食後、渓谷沿いの山道をひた走り…、21時過ぎ宿へ着いた。

翌日からは台湾中部での沢登り、去年はあまりの水量で途中退却だったそうだが、今年は、平年並みで日台交流の沢登りをした。泳ぎの連続で、私はロープにつながれて引っ張ってもらいながら、楽しめた。終了点には温泉がわき出ている～という沢で、みんな登攀用具をはずし、Tシャツを着て湯にひたる…。ごくらく!!

台湾の面積は九州くらいだが、百名山は全て3000m以上で、日本の深田百名山のように、低山は含まれない。ちなみに日本には3000mを超える山は26山で、台湾には200座以上もある。だから渓谷も変化に富んでいて、海岸から沢靴を履いて、山頂まで標高差が3000mの谷を遡行したこともある。

日本一は富士山、台湾の玉山は3952mで昔は新高山ともよんだ。代表的な山を〈五岳〉と呼び、高い順ではないが日本からの登山者にも人気がある。そして、槍ヶ岳のように尖った山のうち三山を〈三尖〉という。合わせて〈五岳三尖〉、百名山の全ては(百嶽という)台湾の人にとっても大変だが、五岳なら～と登る人も多し、沢仲間にも〈百嶽完登〉した人もいる。

何よりの魅力は、ご神木と呼ばれる巨大なヒノキの原生林である。伊勢神宮の建築にも、はるばる台湾から運ばれたヒノキが使われた。屋久島の縄文杉よりも大きなヒノキの集まるご神木公園というものもある。3年前、私はその五岳三尖を完登して、台湾の仲間たちから祝福を受け、立派な盾まで頂いた。おめでとう!のことが登れたことよりも嬉しかった…。初めから意識していたわけではなかったのだが、玉山登山から25年後のことだった…。時差1時間の台湾へは、行きやいので何度も足を運び、一緒に手強い沢登りや雄大な縦走登山を楽しんだ。また日本へ沢登りや百名山を目指して訪日する仲間と同行したりなど、交流登山も楽しい。

注) 宗祠:一族の祖先をまつてあるところ。祖廟

植田先生にはここ数か月、連続で漢詩(近体詩)の成り立ちの講義をして頂き、今月はいよいよ七言律詩に入りました。ここまで学んで来て、漢詩のルールというのが大体頭に入ったようです。あらかじめ完璧な押韻と平仄のもとに原詩が綴られていることを確認して、あとは詩の世界を、現代中国音でタップリ楽しみました。

今回は杜甫の晩年の作品『登高』、この詩の前半は三峡を下る船旅の場面、後半は重陽の節句に絡めた杜甫の胸の内が描かれています。

杜甫が亡くなる3年前、大暦2年(767年)の重陽の節句に書かれたものらしいです。当時、重陽の節句には、見晴らしの良い高台に上って、酒に菊を浮かべて飲む、という厄払いの風習がありました。病身の杜甫がヨロヨロと高台に上った、までは良かったのですが、人生何度目かの新たな禁酒の誓いのために、これまでこよなく愛してきた酒が飲めません。老いさらばえて、酒も飲めなくなってしまった、という哀しさが伝わります。

流石超一流の詩人と言われる杜甫の真骨頂は、そ

の哀しさだけでなく、「何度禁酒しても又飲んでしまうんだよなあ〜」、「これまで数え切れないくらい禁酒をしたが、ことごとく失敗に終わったなあ〜」と言わんばかりに、酒飲みのサガを、やや自虐めいた、独特のユーモアの味も忘れず詠み込んでいるところでしょうか。「新停」の二文字にそのすべてが表れているように思えます。この詩は『唐詩選』に収められており、江戸時代の日本人も愛唱した有名な詩です。

音読みでも、大変味わい深く読めますね、今回は中国語で何度も音読練習をしましたが、何度も音読していると耳に馴染むような魅力があります。

この詩の対句表現は、以下のようになっています。

【首聯】

風急一天高一猿嘯哀 ↔ 渚清一沙白一鸟飞回

【頷聯】

无边一落木一萧萧下 ↔ 不尽一长江一滚滚来

【頸聯】

万里一悲秋一常作客 ↔ 百年一多病一独登台

【尾聯】

艰难一苦恨一繁霜鬓 ↔ 潦倒一新停一浊酒杯

登高

杜甫

○ ● ○ ○ ○ ● ○  
 (首聯) 風 急 天 高 猿 嘯 哀 韻  
 fēng jí tiāng āo yuán xiào āi  
 ● ○ ○ ○ ○ ● ○  
 渚 清 沙 白 鸟 飞 回 韻  
 zhǔ qīng shā bái niǎo fēi huí  
 ○ ○ ○ ○ ○ ● ○  
 (頷聯) 无 边 落 木 萧 萧 下  
 wú biān luò mù xiǎo xiǎo xià  
 ● ● ○ ○ ● ● ○  
 不 尽 长 江 滚 滚 来 韻  
 bú jìn cháng jiāng gǔn gǔn lái  
 (頸聯) ● ● ○ ○ ● ● ○  
 万 里 悲 秋 常 作 客  
 wàn lǐ bēi qiū cháng zuò kè  
 ● ○ ○ ○ ● ● ○ ○  
 百 年 多 病 独 登 台 韻  
 bǎi nián duō bīn dú dēng tái  
 ○ ○ ○ ○ ○ ● ○  
 (尾聯) 艰 难 苦 恨 繁 霜 鬓  
 jiān nán kǔ hèn fán shuāng bìn  
 ● ● ○ ○ ● ● ○  
 潦 倒 新 停 浊 酒 杯 韻  
 liǎo dǎo xīn tíng zhuó jiǔ bēi

【平声灰韻】

とう こう  
 登高

杜甫

かぜ きゅう てんたか えんせいかな  
 (首聯) 風が急に天高くして猿声哀し  
 なぎさきよ すな とり めく  
 渚清く沙白くして鳥飛び廻る  
 む へん らくぼくしょうしゅう くだ  
 (頷聯) 無辺の落木蕭蕭として下り  
 ふ じん こん こん きた  
 不尽の長江滾滾として来る  
 ばん り ひ しゅう つね かく な  
 (頸聯) 万里悲秋常に客と作り  
 ひゃく ねん た びょう ひと だい  
 百年多病独り台に登り  
 かん なん はなは はん そう びん  
 艰难 苦だ恨む繁霜の鬢  
 ろう とう あら とど だく しゅ はい  
 潦倒新たに停む濁酒の杯

【首聯】

晴れた空に風が吹き荒れ、  
 哀しげな猿の声を運んでくる。  
 清い渚に白砂が広がり、鳥が飛  
 び交う。

【頷聯】

無数の枯葉が水面に落ちて、  
 尽きることない長江の水が、  
 急流に渦巻く。

【頸聯】

辛く悲しい万里の旅路、  
 秋深く故郷は遠い。  
 長患いの身を提げて、独り高台  
 に上る。

【尾聯】

苦難の人生を恨みつつ、  
 白髪頭となりはてて、  
 濁酒の杯も又やめにした。

頷聯と頸聯は、それぞれ対句にする。これが律詩の原則ですが、この詩に限って言えば、首聯、尾聯も含めて、すべての聯が対句になっています。この詩の響きの良さは、こんなところにもあるのかもしれませんが。

また、詩の中に散りばめられた言葉は、すでに何らかのイメージを持っています。これも漢詩の面白いところです。例えば「猿声」→「物哀しい」。「悲秋」という言葉は多くの場合、男性の悩みを表し、対する「傷春」は女性の悩みを意味します。「樓閣や高台など、高いところに登る」とは、多くの場合、男性なら「望郷の念」、女性なら「帰らぬ夫を待つ」、というイメージがあるそうです。なるほど一、と頷く一同に「今はその逆で、奥さんは旅行、旦那は留守番というパターンですけどね」という植田先生の吹きで爆笑に。

また、重陽の節句というイメージも重なります。「今の日本に菊酒の習慣は殆んど見かけませんが、花札の菊の絵にはなぜか盃が描かれてますね〜」ホント、そう言えばそうです！幼い頃、お正月のたびに親戚たちが集まり座布団に花札を並べていた風景を思い出しました。

そして最後はみんなで杜甫の人生は一体幸せだったのかどうか、との話に盛り上がりました。杜甫は7歳で詩を書き始め、14歳から社交界で一流の文人たちと酒を酌み交わし、若い頃には一人で旅に出たこともあったようですが、その頃の作品は残っていません。恐らく杜甫自身が気に入らなかったのだろう、とのことでした。

「春望」を書いた後、秦州を經由して成都への旅。そして、また、転々と流浪する旅人となりながらも常に「皇帝に仕え、国家のため、人民のために」という壮大な夢を抱いて生き抜き、人生の幕を下ろした杜甫でした。

「苦難の旅がなければ、杜甫の作品も生まれなかったことだね。宮廷詩人として、権力の下でぬくぬくと過ごす杜甫の姿は想像もできない。天才は苦勞するほどいいものが残るんだね……。凡才が苦勞してもねえ…」という先生の吹きに一同また笑い。

杜甫の人生は苦勞の連続であったかもしれないけど、杜甫の才能を愛した人々が各地にいて、杜甫の詩を記録し、後世に伝え、1300年経った今でもこうし

て人々の心を打ち続けていること。そして、たった一人の妻がどんな艱難辛苦の間も付き添い、最期まで一緒だったことは、つまるところ「杜甫の人生は幸せであった」と結論できるのではないのでしょうか。

「漢詩の会」たより(中国語で読む漢詩の会報告)は花岡風子さんの執筆で、2016年6月講座以来の内容が「わんりい」のホームページに掲載されています。

キーワード: 中国語で読む漢詩の会報告  
[wanli-san.com/m-essay/huuko/huuko.html](http://wanli-san.com/m-essay/huuko/huuko.html)

### 【「わんりい」の原稿を募集しています】

「わんりい」は、2月と8月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又「わんりい」の活動についてのご希望やご意見及び「わんりい」に掲載の記事などについても、簡単にご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル「わんりい」

「わんりい」は、毎年4月から新年度になります。ご継続をよろしく願います。また、新入会をいつでも歓迎します。途中入会の方には会費の割引があります。お問い合わせください。

年会費:1500円 入会金なし

郵便局振替口座:0180-5-134011 「わんりい」

「わんりい」の名は、「万里」の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流によって国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②「わんりい」の活動の全てに参加できます。

問合せ:042-734-5100(事務局)

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい「わんりい」をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所・他でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

「ミヒンタレー」は、紀元前247年にインドのアショカ王の王子マヒンダ師によって、初めて仏教が伝えられたスリランカの地名である。

その経緯を、タランガッレ・ソーマシリ師が教え下さったところに依れば、マヒンダ師の説教を聴いて、アヌラーダブラの当時の王が仏教に帰依された。7日間で8500人が仏教徒となり、その後、スリランカ全域に仏教が広まった。王は感謝の気持ちとしてマヒンダ師に68の仏教石窟と僧院を贈った。伝説によれば、山の神・デーヴァは、仏教流布のためにインドより訪れたマヒンダ師と王を会わせる為、鹿に身を変えて現われた。王は、この鹿を追いマヒンダの許に導かれたと云う。以来、ミヒンタレーは、仏教の重要な都となった。タイトルの「シャンティ」とは、国際梵字仏協会・窪田成円会長作詞の文言から抜粋させていただいた。「平和よ成就あれ」という意味である。

### 仏教揺籃のミヒンタレー

スリランカの文化三角地帯<sup>1)</sup>は、著名な仏教遺跡が目白押しである。然し、ミヒンタレーはスリランカ仏教のスタート地点であるという点で他の仏教遺跡と異なる。前述の、山の神・デーヴァが鹿に身を変えて現れたという物語は周知されているが、6月の満月の頃になると仏教伝来の「ボソン祭」が行われる。国内外から何千人もの仏教徒が集って、ミヒンタレーの山を目指し、頂上にある岩山に登って満月を拝む。頂上まで、4つの地区に分かれており、総数1840段の階段の両側に遺跡が並んでいる。スリ



マハー・サーヤ大塔

ランカの気候は、高温多湿の熱帯であるから、1月といえども熱い。駐車場から杖を持って、私たちは階段を上り始めた。

カンタカ・チェーティヤ寺院が右側に見えた。12mの高さの仏塔があり、紀元前1世紀頃に建てられたと聞く。柱や石の彫刻に眼を奪われた。ガードストーンに動物を彫り込んだ装飾があった。象、馬、ライオン、牛の四動物は人生を語るといわれ、象＝誕生、馬＝老、ライオン＝病、牛＝死、輪廻(転生)を意味するそうだ。そろそろ私も牛に近づいていると苦笑する。歩きすぎたためか足痛が始まり、友人も疲れてきたと云う。木陰に座って、同行の、ソーマシリ師の話を伺った。「この上に行くと、アムバスターレー大塔が在り、マヒンダ師と王が出合った所なんだ」そうだ。大塔には、マヒンダ師の遺骨があると云われる。マハー・サーヤ大塔は丘の頂上に在る。ミヒンタレー最大の仏塔で釈迦の髪が祀られている。このような話の中で私が関心を抱いたのは、「ヴェダハーレ」と呼ばれる古代の病院跡やハーブ風呂である。当地の遺跡の食堂跡には米やカレーを入れたらしい巨大な石の箱がある。当時の食事はハーブのスープもあったと思われる。僧院には2000人の僧侶が生活し、200人以上の世俗の民が雇わ



カンタカ・チェーティヤ寺院





アムバスタレー大塔

れていたとミヒンタレーの博物館の碑文にも記されていた。医師・教師・調理師への報酬額や経費の明細書などが整理されて各年度末に収支を提出するように義務づけられていた・・・。

想像するに、世間一般の生活の規範がこの地で出来上っていたことになる。つまり、ミヒンタレーの仏教は人々の生活に深く関わり、習慣や禁制などを創り出してきた。スリランカ人の穏やかな生き方も、人間はどうあるべきかの問いかけも、このミヒンタレーから始まったと云うべきである。

### ミヒンタレー国際梵字仏文化センター

「梵語梵字を通して仏教文化研修や国際交流親善をされておられる方がいらっしゃる。スリランカに訪れたら、是非、窪田成円(国際梵字仏協会長/梵字講師)さんの寺に行ってみなさい」と勧めて下さったのは、日本スリランカ協会・高崎邦雄事務局長であった。

梵語とは、古代インドで使われたサンスクリット語を云い、これを記す文字が梵字である。更に、多くの人々に親しみをもたれるよう創意工夫されたのが、梵字一文字が神仏を表わすという成円師継承の三井喬円流梵字仏である。梵字は発祥地のインドや中国でほとんど<sup>すた</sup>廃れてしまい、日本の一部の人によって継がれてきている状況だと聞いている。この梵字を通して世界平和と人類の安寧を願い、国内外で広く活動を展開されている方が窪田成円師とのことである。

2013年1月12日、キャンディーロードに面した、国際梵字仏文化センターに立ち寄った。日本風山門をくぐると、左手に梵字を納仏した仏舍利塔があり、

右手に菩提樹が茂っていた。「梵字仏喬円記念館」が正面に存在感を誇り、何処を見廻しても整然として、清潔感があった。日本の庭園も造られている。日本留学の体験があり窪田成円師の門下生であるサンガ・ラタナ・マハテー口師が、この梵字スリランカ文化財団代表として勤めておられる。ニコンボに在る寺院住職と幼稚園経営者としてご多忙を極める方で、生憎私たちが訪れた日は留守であった。記念館の土地は時の政府から提供を受け、2002年、日本の有志による基金を元に建立されたそうだ。

窪田成円師は、私と同世代であり戦争体験者である。近年ではスリランカの内戦を観、アフガニスタンのバーミヤンの仏跡破壊や世界を震撼とさせる争いごとを観て来られた。成円師は常に、世界恒久平和を梵字仏に込めることを考えられ、国際梵字仏文化センターの建立に挑まれたのであろう。アショカ王もマヒンダ師も21世紀の仏教伝道者として窪田成円師の功績を認めておられるかもである。

### 甲斐市国際梵字センター

竜王駅(中央線甲府駅の隣)から歩いてもさほどではない所に窪田成円師宅が在る。梵字の館は、その屋敷の中に設けられている。由緒あるお家柄で300年も続いてきた。台風が通り過ぎたあとの2014年9月9日、立派な門構えの国際梵字センターを訪れた。

梵字石碑展示庭園や梵字マンダラ作品が所狭しと並べられてあった。窪田師からさまざまな苦労話やマスコミで紹介されたことを伺ったり、活動取材され放映されたビデオなどを拝見した。梵字啓蒙活動に日々、明け暮れておられるとのことであった。誰もが、安隠で仏様と向かい合える場として竜王新町の甲斐市梵字センターの館を皆様に勧めたい。

(写真はグーグル・パノラミオから転載)

### ■注

文化三角地帯(Cultural triangle):スリランカのほぼ中央に位置する古代遺跡が集中するエリアのことである。アヌラダプラ、ポロンナルワ、キャンディの3都市を結ぶ三角形の中に、シーギリヤ、黄金寺院のあるダンブッラ、ミヒンタレー、ナーランダなど、スリランカで重要な遺跡が多く含まれている。  
(ウィキペディア)

さやまめ

## 莢豆でなくれつきとしたお豆のモロッコインゲンをつかったアルジェリア風シチュー／フランスパン／失敗なしの美味しいシュークリーム

2017年5月11日(木)麻生市民館・料理室

参加者:8名

5月の「わんりい料理講座」は、モロッコインゲン豆(乾燥)のアルジェリア風シチュー/サラダ/フランスパン/シュークリームと結構盛りだくさんの内容だった。

昨年(2016年3月)、家族がアルジェリア出身のフランス人であるサミラ・シェバさんにアルジェリアンシチューを教えて頂いた。本来はひよこ豆を使うが、今回はひよこ豆の代わりにこのモロッコインゲンを豆として収穫したものを使った。また、本場ものでは最後の仕上げにFrick(フリック)と呼ばれる粗挽きのセモリナ麦を入れるが日本では手に入らない。代用としてというか、前回の料理講座で、健康に良いという野生の麦(燕麦)の粉を取り上げたことから、欧米でいろいろな形で食用されるオートミール(燕麦を食べやすく加工した)を使っ

て健康志向のシチューにしてみた。最近では日本でもヨーグルトのトッピングとして頂く若い人が増えてきているが、シチューと相性がとても良いことが確認できたことは収穫だった。

モロッコインゲンは、大きくて平たい若菜<sup>わかさや</sup>の状態<sup>わかさや</sup>で何年前前からスーパーの野菜売場に並ぶようになったので「ああ、あの豆ね」と思い当たる方はいらっしやると思う。このモロッコインゲ

ンを長野県の浅間山周辺の農家が成熟させて収穫し乾燥豆として販売している。まだ、市場ではあまり出回っていないが、乾燥豆の姿は一見した

ところではうずら豆のようだが大豆並の加熱で頂けて美味しい。

長野県に転居された‘わんりい’会員の岩田さんからこの豆を紹介されて知った。容易に煮える上、ふっくらと美味しい豆である。シチューやサラダにぴったりなので市場に出回れば重宝するのではないかと思う。今回の料理講座では、岩田さんの手を煩わせてモロッコインゲン豆を手に入れ、ひよこ豆の代わりに使ったが、これは大成功、ひよこ豆よりおいしいとの声もあがった。

フランスパンは、パン作りに60年関わり、退職後は7年間中国のホテルでパン作りの指導をされた会員

の杉野さんが教えてくださった。パン作りのベテランの指導は流石で、「粉をこねる水の温度が大事である」とのこと、粉をこねる水の温度=65℃-(粉温+室温)と言う公式を教えてくださいました。この日は室温23℃、粉の温度も23℃で、水温19℃が適温と知ることが出来た。また、フランスパンの材料は、粉、塩、イーストと微温湯のみで、その割合は本来、粉に対して微温湯60%、



パン生地の捏ねをデモする



こんがり焼き上がったシュークリームの皮に満面の笑顔の杉野さん

塩2%、イースト1%とのことだ。ただ、私たちが捏ねる時は捏ねる力不足や温度管理などのこともありイーストは多めの2%が良いのではとのことであった。

パンを捏ね、発酵させている間に、シチューを仕込み、火にかけている間に、パンの成形・二次発酵、またその間にシュークリームのシューの捏ね方を見せて頂いた。シューの種の絞り出しは、口金が外れたりして苦戦したが、種がしっかりしているので焼き上がりはなかなかで、皆で「オウ！」と声を上げた。冷蔵庫で冷やしてあったカスタードクリームを入れて、美味しいシュークリームの出来上がりである。柚野さん指導のシュークリームは、冷めてもつぶれないし、クリームも純正材料のみなので胸を張ってお土産にもできる。

パンが焼け、シチューが煮上がって、サラダを盛り付けて食事を頂く準備が出来た頃、シューを作った時に残った7個分の卵白を使ったカステラもどきも焼き上がった。これは、さすがその道

60年のベテラン柚野さんが、余った卵白を見てひょいっと作ってくださった。

予定メニューのランチに、思いがけない一品も加わって、素敵な昼食が整った。



#### ■本日のランチメニュー

- ①モロッコインゲンをたっぷり使ったアルジェリア風シチュー、
- ②モロッコインゲンとドライフルーツ入りキャベツのサラダ、
- ③フランスパン、
- ④手作りのシュークリーム&卵白のケーキ、
- ⑤ケニア産のコーヒー

### 失敗なしで美味しいシュークリームを作ろう！

#### (1)下記の材料と手順でカスタードクリームを作って置く

##### 【カスタードクリーム材料】

砂糖240g、薄力粉80g(ふるって置く)、全卵2個  
黄身7個、牛乳1000ccバニラオイル少々

##### 【作り方】

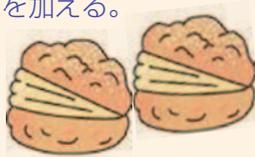
- ①砂糖、全卵、卵黄をボールに入れてよく混ぜる
- ②粉を加えてさらに良く混ぜる
- ③牛乳を火に掛け、沸騰直前におろし、②に少しずつ①を加えて混ぜていく
- ④大なべに湯をわかし、③のボールを湯煎に掛けて木杓子でかき混ぜながらとろみをつけていく。
- ⑤とろみがついたところで、ボールを湯からはずし、少し冷ましてバニラオイル少々を加える。

#### (2)シュークリームの皮を焼く

##### 【シューの材料】

水150cc、バター75g  
強力粉80g(ふるっておく)、全卵4個

##### 【作り方】



- ①卵をむらのないように溶いておく
- ②天板にシートを敷く。オーブン220℃に温めて置く
- ③鍋に水、バターを入れ、強火で完全に沸騰したら火から下し、薄力粉を一度に加えて木ベラで良く練り混ぜる
- ④③の鍋に①の卵汁を1/4ずつかき混ぜながら加えて行く
- ⑤ヘラで生地を持ち上げ、ポタリと最初の生地が落ちてくる状態になったらストップ
- ⑥絞り袋に生地を入れ直径4cm位の大きさと、間隔をあけて絞り出す(絞り袋がなければスプーンで同量程度を間隔をあけて落としてゆく)
- ⑦温めておいたオーブンにセットし、25分間焼く。焼きあがってもすぐには取り出さず、5～10分余熱のオーブンの中に入れておき、その後取り出す。

#### (3)シューにクリームを入れる

- ①焼き上がったシューの横に切れ目を入れ、用意のクリーム入れる。

日中国交正常化45周年記念

薪火の相伝—景德鎮現代陶磁作品展

<http://www.toho-shoten.co.jp/toho/saiji17-020.html>

無料

(主催:公財・日中友好会館、江西省陶磁研究所)

中国江西省の景德鎮は、透き通るような白磁と藍色の紋様に代表される姿で、世界中で名声を得ている。景德鎮陶磁器の千年を超える伝統は、現在も優れた職人たちに受け継がれて発展中である。本展では現代景德鎮陶磁器の第一人者・秦錫麟氏と弟子である邱含氏、陳敏氏の3名による作品約100点を展示する。



秦錫麟「山花爛漫」



陳敏「紅葉と子供」



邱含「山泉幽静」

- **会期**: 6月15日(木)～7月5日(水)(月曜休館)、10:00～17:00 ▲初日は15:00より開幕式
- **会場**: 日中友好会館美術館 (〒112-0004 東京都文京区後楽1-5-3)
- **作家紹介**: ■ **秦錫麟**(中国工芸美術大師)…現代景德鎮陶磁の第一人者。スケールの大きい筆遣いが特徴。■ **邱含**(中国工芸美術大師)…山水画を得意とし、作品には文人画の風格が漂う。■ **陳敏**(江西省工芸美術大師)…嬰戲図(こどもが遊ぶ絵)を得意とする穏やかな作風。
- **関連イベント**
  - ▲ **オープニングイベント**(申込不要) ■ 6月15日(木) 15:00 開幕式、場所: 日中友好会館美術館
  - ※ 15:45頃より邱含氏、陳敏氏による中国の制作実演 ■ 講演会・茶話会、6月22日(木) 14:00-16:30、「中国磁史について」、講師: 楊小語(復旦大学大学院博士課程在籍、東京芸術大学大学院特別研究生) 通訳あり 500円(資料、茶話会代込)、50名(要申込)、会場: 日中友好会館地下ホール
  - ▲ **ミュージアムミニコンサート**(揚琴演奏/張林)、会場: 日中友好会館美術館 ■ 6月28日(水) 14:00～14:40 頃座席(50席)希望者要事前申込み/立ち見自由
- **問合せ**: (公財)日中友好会館文化事業部 ☎ 03-3815-5085 E-mail: [bunka@jcfcr.or.jp](mailto:bunka@jcfcr.or.jp)

【東京中国文化センターの催し】

浙江省文化年第二弾「暮しを彩る龍泉青磁」

無料

(主催:浙江省文化庁/東京中国文化センター)

[http://www.peoplechina.com.cn/home/second/2017-05/09/content\\_740292.htm](http://www.peoplechina.com.cn/home/second/2017-05/09/content_740292.htm)

中国の陶磁器の歴史は紀元前4200年頃に始まるといわれているが宋代に黄金時代を迎え、南宋時代に首都が臨安(現在の浙江省杭州市)に遷都したことで更なる発展を遂げた。今回展示の龍泉青磁は浙江省南西部にある数百カ所の窯場で生産された青磁の総称で、しっとりとした美しい碧緑の磁器として知られている。本展では総勢86名の作家による、88セットの青磁作品を展示。



菊弁紋甕

- **会期**: 2017年5月30日(火)～6月9日(金)(土・日祝休)
- **場所**: 東京中国文化センター(〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-5-137 森ビル1F)
- **講演会**: 「世界文化遺産—龍泉青磁について」▲ 6月9日(金) 15:30～16:30  
講師: 工芸美術大師 **陳愛明**(龍泉大窯磁文化研究センター所長)  
工芸美術大師 **潘建波**(龍泉市溢青軒青磁坊法人代表者)

◆ 申込方法:

(1) 中国文化センターのイベント案内ページから:

<http://www.ccctok.com/event/event-detail/?id=4497>

(2) E-mailまたはFAX: 件名を「龍泉青磁展講演会」として、参加者氏名、電話番号、E-mailアドレスを明記の上、

中国文化センター E-mail: [info@ccctok.com](mailto:info@ccctok.com) / FAX: 03-6402-8169 へ申し込む



仿歌釉双耳盤口瓶

【6月定例会開催日及び7月号おたより発送予定日】 ◆ 問合せ: ☎ 042-734-5100(わんりい)

- 6月の定例会: 6月13日(火) 13:30～ 三輪センター・第五会議室
  - 7月の定例会: 7月11日(火) 13:30～ 三輪センター・第三会議室、定例会はどなたでも参加できます。
  - 7月号おたより発送日: 7月2日(日) 10:30～ 場所: 三輪センター・第三会議室
- ※ おたより発送日はお弁当を持参ください。

**‘わんりい’中国語勉強会** (1992年5月開講25年間の実績あり)

講師：**郁唯先生** (天津師範大学卒業)

和気藹々と楽しみながら中国語や中国の文化に親しんできました。程度としては中級クラス。  
10名～12名を定員としています。\***入会金不要1か月間4回の体験無料です**

- 会場：鶴川市民センター・和室 (〒195-0062 町田市大蔵町1981-4 駐車場有り)
- 日時：毎週火曜日 (原則として第5週目は休講) 19:00～21:00
- 会費：5000円 (教科書代を除く会場費、講師謝礼、‘わんりい’会費を含む)
- ◆ 問合せ：三澤 ☎042-735-2717 E-mail:fwjg1705@mb.infoweb.ne.jp

**町田中国語勉強会** (毎月第1、第2、第4土曜日) 講師：**郁唯先生** (天津師範大学卒業)  
※どちらのクラスも入会金不要です。見学ご希望の方は気軽にお問い合わせください

**午前クラス 10:15～12:15**

- 会場：町田中央公民館 (原則として)
- 会費：3か月分として13,000円
- 対象：初心者の方も大歓迎
- ◆ 問合せ：☎042-725-3963 (森川)  
E-mail:ymorikawan@ybb.ne.jp

**午後クラス 14:00～16:00 [中国文芸サークル]**

- 会場：町田市民文学館・ことばらんど
- 会費：4,000円/月
- 対象：中国語を少しだけ習った方歓迎
- ◆ 問合せ：☎090-1425-0472 (寺西)  
E-mail:t\_taizan@yahoo.co.jp

**網上中国語研究会新会員募集** 講師：**劉冠群先生** (北京出身)

北京出身の中国人先生から直接聞いて話して勉強してみませんか？  
中国語初めての方大歓迎。見学也大歓迎！

- 会場：麻生市民館岡上分館 (〒215-0027 麻生区岡上286-1)
- 曜日と時間：毎週土曜日 10:00～12:00 ● 会費：月謝5,000円
- ◆ 問合せ：☎044-865-3757 (久保田) E-mail:tizm2008@jcom.home.ne.jp (和泉)



**初心者のための【鶴川水墨画教室】 体験のお誘い**

- 講師：満柏 (日中水墨協会会長)
- 会場：鶴川市民センター (195-0062 町田市大蔵町1981-4 駐車場有り)
- 曜日と時間：第2又は第4月曜日 14:00～16:00
- 体験参加費：1000円 (見学無料/手ぶら参加可)
- ◆ 問合せ：☎042-735-6135 (野島)

**スマートフォンで撮る〈魅力の旅写真〉講座** 1日で写真表現と画像処理方法の全てが分かる！

(※講座参加に当ってカメラの機能や設定についての詳細な知識の有無は問いません。) <http://peatix.com/event/252057?lang=ja>

- 6月の講座予定は6月中旬以降の土曜日です。下記メールにお問合せください。講座時間 10:00～20:00

- ◆ 講義会場：(株)日中観光振興協会・飯田橋研修センター 東京都千代田区飯田橋4-1-1)  
10:00～15:00 講義＝芸術写真の原理 (光とカメラとレンズの知識)  
★講師：佐藤成範 日本中国写真芸術協会会長/(社)日本写真家協会会員
- 10:00～15:00 講義＝スマホを活かし一眼レフに負けなく撮影するテクニック  
★講師：三好隆盛 日本中国写真芸術協会会員/豊島区国際アート・カルチャー特命大使
- ◆ 撮影実習：15:00～17:00 撮影実習：特別名勝「小石川後樂園」にて (会場から徒歩10分)
- ◆ 作品講評：画像処理とプリントアウト：17:00～20:00 (写真の持ち帰り可)
- ◆ 参加費：10,000円 (消費税・小石川後樂園入園料込、デジタル一眼レフカメラ無料貸し出し有)
- ◆ 定員：16名 (先着順) ※最低開催人数8名未満、もしくは悪天候の場合は講座を中止することがあります。
- ◆ 申込と問合せ：ryuisyo@gmail.com (三好隆盛) ☎03-6667-5918 日本中国観光振興協会 (10:00～18:00)

## 【作ってみよう! 味わってみよう! わんりい・料理の会の催し】

南国料理を楽しんで、ひと足早い夏が始まる!!

### インドネシア料理は太陽の味

インドネシア料理の美味しさの決め手、ソースの作り方2種類をマスターしよう!

講師: 口サリタ (和光大学 バンバン ルディアント教授夫人)

- 2017年6月15日(木) 10:30 ~ 14:00 ● 場所: 麻生市民館・料理室  
川崎市麻生区万福寺 1-5-2/小田急線新百合ヶ丘駅北口徒歩3分
- メニュー: ①ナシ ゴレン(炒飯)、②サテーアヤム(焼鳥)、③ソト アヤム(鶏ガラスープ)  
④コラック カチャン ビジャウ(緑豆とココナッツミルクのデザート 白玉入り) その他
- 参加費: 1500円(会場費・材料代) ※定員: 先着 15名(申し込み締め切り: 6月13日)
- 持物: エプロン、筆記用具、自分用の布巾、プラスチック容器(手づくりしたソースを入れます)
- ◆ 申込&問合せ: ☎042-734-5100(わんりい) E-mail wanli@jcom.home.ne.jp



口サリタさん

インドネシア料理の人気ナンバーワンは何といてもナシゴレンのプレートでしょう。半熟の目玉焼きを載せたインドネシア風炒飯、ゴマダレを掛けたサテーアヤム(焼鳥)、揚げえびせんと酢漬野菜を大きな皿に盛り付けた南国的な華やかな一皿です。文字で書けば「炒飯」「焼鳥」なのですが、インドネシアならではの奥深い味に虜になると思います。今回は、和光大学教授・バンバン ルディアント先生の奥様でいらっしゃる口サリタさんからその美味しさの決め手のソース2種類の作り方をしっかり教えて頂きます。多めに作ってお土産にしますから今年の夏は、ご自宅でインドネシア料理が楽しめますね。

【料理講座予告】麻生市民館・料理室での料理の会を下記予定しています。

◆ 7月17日(海の日) 10:30 ~ 14:00 参加費: 1500円

### 国際フェスティバル in 代々木公園

<http://www.yoyogipark.info/>

- 第10回ベトナムフェスティバル2017  
6月10日(土) ~ 11日(日)
- スリランカフェスティバル 2017  
6月24日(土) ~ 25日(日)
- 台湾フェスティバル2017  
7月29日(土) ~ 30日(日)



### ■ ご予定ください ■

《あさおサークル祭2017》7月22日(土)・23日(日)  
麻生市民館・全館 (小田急線新百合ヶ丘駅北口3分)

#### 【'わんりい' のプログラム】

- 7月23日 10:30 ~ 12:00 視聴覚室  
講演会「『論語』から学ぶ言葉の力」  
講師 植田渥雄先生
- 7月23日 13:30 ~ 15:00 視聴覚室  
「ボイス・トレをして日本の歌を美しく歌おう!」  
講師 Emme (エメ・歌手)

### 'わんりい' 224号の主な目次

- 「寺子屋・四字成語」雑感(3) 举一反三 ……2
- 論語断片(27) 爾は其の羊を愛しむ、我は其の礼 ……3
- を愛しむ大連・長春・丹東の旅(その8) ……4
- 混迷の時代を拓くザメンホフの人類人主義(14) ……6
- 東西文明の比較(15) ……8
- 消え去りゆく北京の路地裏・胡同への思い(1) ……10
- 台湾・春の金門島訪問記 ……13
- 「漢詩の会」報告(12) 漢詩創作のルール③七言絶句 ……16
- スリランカ紀行(18) ミヒンタレー・シャンティ ……18
- 【活動報告】アルジェリア風シチュウとフランスパン ……20
- 失敗なしの美味しいシュークリーム・レシピ ……21
- わんりい掲示板 ……22・23・24

■ 定例会及びおたより印刷発送の日時・会場は22ページです。 ■ 「漢詩の会」と「ボイス・トレの会」の講座の開催日は12ページです。